



30年前にかつての林道車留めにて

## 「朝日連峰

### 思い出のU沢再訪」

釣行日 2023. 6. 9～11

参加者 根本、重川、伊藤  
齊藤、三本松

レポート 齊藤

積年の念願が叶いました。

30年弱前、当然ながら私も30代中頃で重いザックもなんのその、それどころか、バランスが良くないと川原の石をザックの隙間にに入れてまで担いでいた頃です。(嘘ばっかし)

そんな時代にさらにボッカ担当がいれば、ビール三昧&帰りは山菜おみやどっさり釣行が、と名案が浮かび、いまでこそすっかり年季が入り、前期高齢者までカウントダウンも当時は好青年を装った、ネモ氏、重川君を誘っての1泊源流釣行を敢行。

初めての釣行では林道の車留めから尾根の鞍部を目掛けピークから沢に下降、僅か小1時間でほぼポイント毎の型の良い岩魚と極上のウルイ、ミズなど山菜採りを楽しみながら遡行すること3～4時間で原生林に囲まれた平らな寝床のロケーション抜群の2又へ。

まずは到着乾杯でのどを潤し、この先の二又を沢割し、水枯れまでいる岩魚とご対面。

夕餉は持込んだ大量の酒、食材に加え、山菜、岩魚料理フルコースで下界よりも豪華、盛大な宴会で夜更けまで大盛り上がり。

有り余る体力のこの当時は夜明け前にまた起きだして何次会だかわからない乾杯を何度したことか。

そんな思い出の沢も水量が当時より、減ったことが原因か岩魚も薄くなり、林道も荒れて入渓機会もなくなったことでその後は疎遠になる。

20年前位に1度行った記憶があるが、顔を合わせるたびに「チャンスももう最後かも知れないからもう一回行って見たいね」と話題になる。

しかし、林道をあてにできない今では山越えの慎重なルート選定と相当な歩きが、必要で今まで叶わずに。

今年もタケノコ採りの折にまた同じ話が出て今年こそはとの両人の強い希望もあり、「ほんじゃ、ほんとうに行ってみる？」と今回の釣行が実現。

計画段階では地図とにらめっこで「どの沢を詰めてどの尾根を乗越し、下降し、帰りはこれでどうだ」、「いや、そんなんじゃ遠くて今の自分たちには歩けないだろう」、「じゃ、どこが？」と散々検討した後、

T1 沢詰め、T2 沢出合へ下降、U 沢へ降りてそのまま遡行、帰りは U 沢左又の支沢を稜線に向けて沢詰め、下降、デポした車留めへ と言う、ほぼ稜線を中心にして長方形に辿るルートに決定。

前夜、T1 沢の車留めで軽く 1 杯やり、早朝デポ車 1 台を移動、生憎の小雨で暫く様子見で出発が 10 時前と予定より、だいぶ遅くなる。

雨が小降りになってきたこととこれ以上では夕刻までに着かなくなる恐れもあり、意を決して出発。最近では熊の事故も多いようで爆竹や笛をピーピーと鳴らしながら荒れた昔の伐採林道を行って詰め上がる沢へ。

ここで取り付きを間違えるととんでもないところに出てしまうので小休止を兼ねて現在地を確認。



ここは古来から集落間を行き来した道と言うことで沢筋には切れ切れにでも道型が残っていて特段、危険もなく忠実に詰め上がればかつて道祖神があった乗越しの尾根に導かれる。

後はこの先の沢型を降りていくと僅かで水が出てここを下降する。同様に道型があるが、昨年 8 月の水害の影響でブナの大木が至る所で沢に倒れていて歩き辛いなのと余計に疲れる。

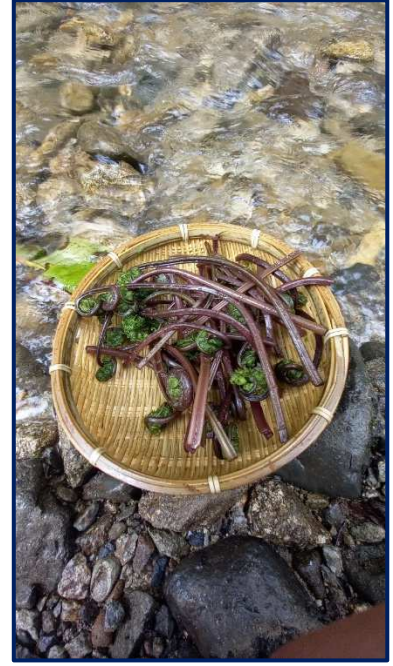
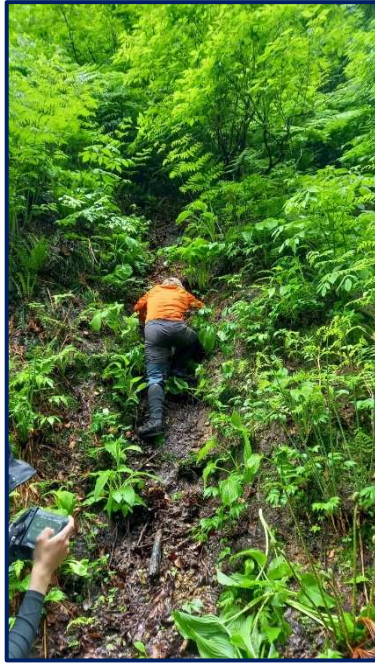
私が先頭で遡行していて大木が数本横たわっている場所で何となくいやだなと思ってここを避けて斜面に道があるはずと取付いて僅かに先に行くと後続が倒木の場所で「キクラゲあった！！」と。疲れていて戻るのも面倒で「残念だけどパス」と思っていたら、斜面に引っ掛かっていた倒木が下にいた伊藤さんと重川君目掛けて沢にずり落ちてきたようで鈍い音とともに「あー」叫んでいる。



尾根までもう僅か

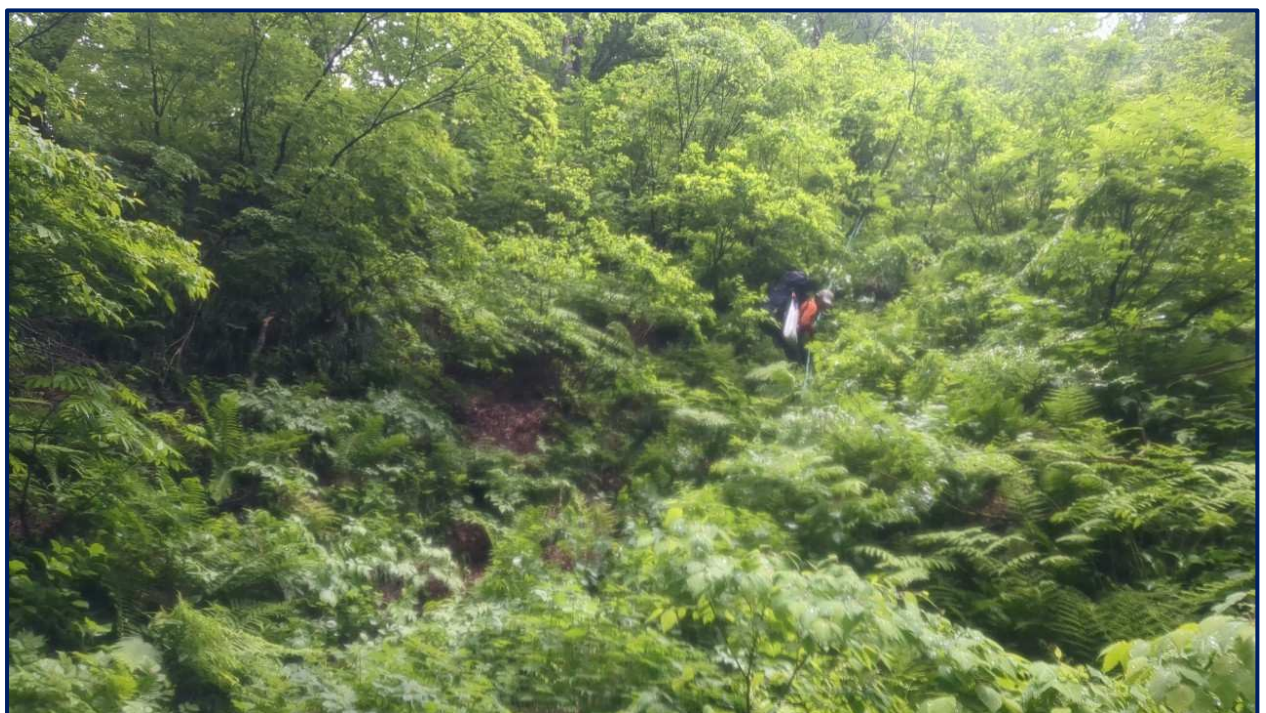
2人は沢の倒木の隙間に落ちて身動きが取れずにいたが、倒木はすんでのところまで止まり、事なきを得る。倒木が隙間を覆ったら人力でなどよけようもないし、まともにあたっていたならと思うとぞっとする。

その後、残雪のある場所では良いタイミングのウルイやシドケが沢山あってただでさえ思いザックにこれ以上はとためらうが、さすが若いやつは違う、私と親子ほどの年齢の三本松くんが、「大丈夫、俺担ぎますよ」とのうれしいお言葉に最大限甘えさせていただく。



赤コゴミがあれば雪の斜面を登り、ウルイがあれば泥壁をと

途中、高度のある滝をザイルで降りれば第一目的の沢の出会いはまだすぐ、時間も時間なので遡行ペースを速め、第二目的のU沢へ到着。



今回の目的のもう一つは溪流釣りを始めてまだ釣ったことがないと言う三本松くんが岩魚を釣らせること。

U 沢を詰め上がったの最初の滝にはいつも良いサイズがおり、ゆっくりする余裕もあまりないが、彼も釣りたくてうずうずしているだろうと思い竿を出してもらおう。

ギャラリー4 人の視線を浴びる中「いやそこじゃね～、それじゃだめだ」とうるさいオヤジ連中にあーでもない、こーでもないと言われつつ、何とか記念すべき念願の目的を達成。



人生初岩魚です！！

彼には申し訳ないが、これ以上の釣りは時間的にもう無理なので一旦竿をしまつて遡行に専念。滝の上はかつての見覚えのある風景も懐かしくやっとここに来れた満足感もあり、冷蔵庫(残雪)付きの川原の極上物件では「今日はここにして明日いつものテン場にでいいんじゃないの?(早く飲みたいよー)」なんて声も出る。

私も冷蔵庫=きんきんのビール に後ろ髪をひかれるが、「いや頑張れば日没前には届くから」とペースを上げる。

ここからはウレイ畑状の極上山菜にも見向きもせず、頑張った甲斐もあって予定より早いまだ明るいうちに目的のテン場に到着。

やはり昨年の水害で劇的に溪相が変わり当時の面影は僅か。以前はゴミ畑だった川原が砂で埋まり、当時の場所の僅か少し上流の平坦なここを寝床に。

いつものようにタープを張って薪を集め雨予報に備えて宴会場にはブルーシートの天幕も。

チャーシュー用の塊り肉のセットも完了。

さあ、今日は飲んで食って寝るだけ、30 年前の思い出に浸りながらゆっくり、のんびりやろう。

酒もつまみもふんだんにある、さて何からいただくか。





まずは、ニンニク醤油に漬け込んだ砂肝のニラ炒めとウルイとミズはキュウリを入れて塩昆布で味付け、シャキシャキの即席漬けがちゃっちゃと完成です。

そしてウルイの季節にはこれを1回は食わないと と言うシーチキン和えも絶品です。



当然、これだけのおつまみを前にしてはお酒もハイペースで進みます。

夜も更け、一段と良い気分で30年前の釣行のこと、ここまでの道のりやら何やらで大した話題でもないのにみんなの顔が「来て良かったね」とほころんでいます。

夜が更けてもみんなご機嫌で盛り上がっていますが、私はいつの間にかシュラフに潜り、「うっせいな～眠れねーだろ～」と一瞬思った後、その後の記憶はなく起きた時には既に夜明けでした。



「ああ～、良く食った、飲んだ、良く寝た」前夜の残りの熾きに小枝をくべれば狼煙が上がり、本日の行動(飲み)スタートともう焼酎に手を付けている。

「朝からかい？」

「はいそれが楽しみで」

「釣りは行かないの？」

「楽しみにしている三本松くんに譲ります」

「じゃこれから1日ここで飲んでいるの？」

「そのようになりますかね」

「昼飯は山菜いっぱいチャーシュー麺食いたいっすねー」

「夜は山菜と岩魚の天井がいいっすねー」

なんて飲むことと食うことしか考えていない。



さすが 元祖源流酒場 注文通りの料理ができました

がしかし、散々遊び倒した、沢も最終日の3日目の朝になりました。  
心残りではありますが、楽しいことも必ず終わりが来るのが現実です。  
今日は上流へ沢を詰めて稜線へ上がらなくては帰れません。さて何時間かかるでしょうか？  
多く見積もって6時間。カウントダウン前期高齢者のやることじゃありません。  
ここはまた三本松くんのボッカカに依存大です。タープやその他もろもろを彼に担いでもらいできるだけ  
身軽に何とか登り切りましょう。

岩魚のあらで出汁を取った山菜具たくさんの絶品汁とウルイ&ハム炒めで腹ごしらえを十分に。  
これからの長丁場に備えてお昼の弁当(ノリ弁)の用意もできました。



記念撮影を済ませ、最高の3日間を与えてくれた山の神様に感謝し、テン場を後にします。



「本当にこっちでいいんですかね〜」、「え〜あそこまで昇るの?」、「ちょっと待って休憩」などなど最後の急登の詰めを這い上がり、何とかピークの尾根まで登り切る。「やった〜後は下るだけ」

と喜んだつかの間、三本松くんから「地図によるとここは中間尾根だから、この先のもう一つのピークを踏まないためです」と金属バットで思いっきり心をへし折るような言葉に意気消沈。

どうりで 1.5 時間で登り切ったわけだ。この軍団がそんなに早いはずがないのに。

小休止の後、萎えた気持ちをもう一度奮い立ててやっとかさ本命のピークへ。

ここまで来れば後は尾根道からデポ地近くまで続くはずの道を外さないように進むだけ。

途中消えかかる道も何とか拾え、難所などない樹林帯をただただと歩いただけ。



ん〜現在地は…



もう へろへろっす



まだまだー かな?

随分歩いたなと思う頃、やっとデポ車付近に着きました。

なんと予定よりずいぶん早い 4.5 時間。

周遊コース全完結でデポ車前で記念撮影。でもなぜか三本松くんだけが V サインとは裏腹に表情が冴えません。

「いやー疲れた」と言う充実感?

「こいつら俺にこんなに担がせやがって」

さてどんな心境が。

でも「また行きましょう」と言うことは充実感と解釈しましょう。

変わってカウントダウン前期高齢者たちは今回の釣行で念願が叶い、積年の憑き物が取れたでしょうか。

ま、みんなにとってとにかく楽しい山遊びだったことは間違いないですね。前期高齢者になる前にまた楽しみたいですね。

